



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2506号)

令和7年4月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ホタルイカ・ハタハタの来遊状況等について (調査船「たじま」による4月半中層トロール等調査結果)

令和7年4月14日津居山沖、同21日浜坂沖で実施した漁業調査船「たじま」による海洋観測およびトロール調査(図1)の結果を報告します。

1. 漁場形成調査

ホタルイカ漁場は14日は津居山沖の水深250～260mと深めに、21日は浜坂から香住沖の水深220～230mに形成されました(図2)。一部の漁船は、入網量の減少を受け中旬より日御碕沖に漁場移動しました。

2. トロール試験操業結果

半中層トロール網(袖先間隔17m、網高さ8m、袋網16節、モジ網240経カバーネットあり)を使用し、3ノットで30分曳網しました。曳網は21日に浜坂沖の水深250m・225mの2か所で行いました。

＜ホタルイカ＞

- ・漁船の操業が集中していた水深225mでの入網量は146kg/網と前年同時期を上回りましたが、250mではほとんど入網がありませんでした(表1)。
- ・外套背長(胴体の長さ)の平均値は平年並みからやや小さめでした。22日に漁船より入手した日御碕沖の標本はわずかながらさらに小さめでした。
- ・いずれの標本でもオス(小型、通称トンガリ)の混入が未だ3～13%認められています。

＜ハタハタ＞

- ・前年同様、入網量は1kg/網未満とわずかでした(表1)。1歳魚(体長120mm未満;豆ジンタン)も尾数で23%混ざったものの資源回復の兆候は認められていません。

＜餌料生物(カバーネット)＞

- ・両種の主要な餌である小型甲殻類のカバーネットへの入網量は前年を下回りました(表1)。水深250mの入網物はほぼニホンウミノミで占められました。

3. 海洋観測と魚探収録

- ・海底の水温分布は、津居山沖(14日)では浜坂沖(21日)より全体的に10～20m深めにずれている状況でした。
- ・海底付近のキュウリエソ主体とみられる魚探反応は、津居山沖では水深220～250mと深めで着底していました。
- ・両日の漁場水深の違いは上記の影響を受けていると考えられました。
- ・3月調査時点に比べ、温度躍層(概ね10～3℃の範囲で水温が急変する部分)の等温線の間隔が広がっていました。

このことが今月のホタルイカ魚群密度低下の一要因となった可能性があります。ただ、来遊量水準自体が現時点で低下している可能性も高く、今後は漁場形成だけでなく、資源の動向とその変動要因についても検討していく必要があると考えています。

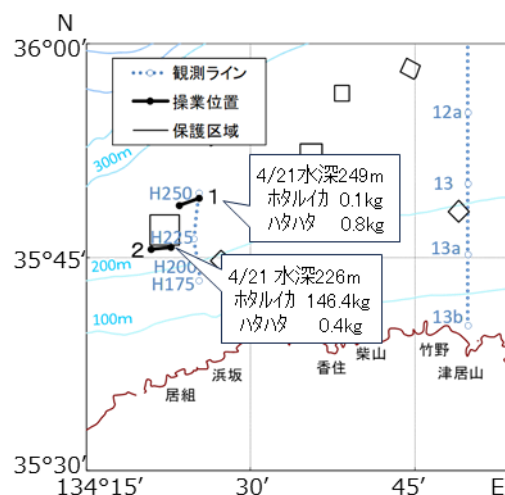


図1 調査海域図

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター (担当：大谷)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.html

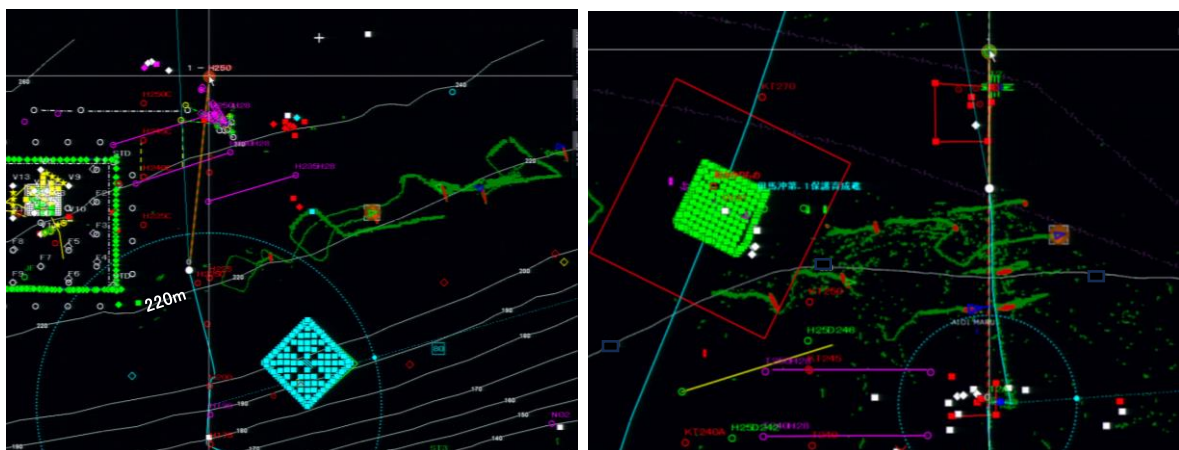


図2 沖底船のホタルイカ操業状況(左:浜坂沖4月21日、右:津居山沖4月14日)

表1 トロール試験操業における入網状況

調査年月日		(参考; 前年)			
2025/4/21		2024/4/15			
海域	浜坂沖	浜坂沖			
平均曳網水深(m)	249 226	251 232			
天候	快晴 快晴	晴 曇			
曳網開始時刻	12:01 13:53	12:13 13:49			
ホタルイカ	0.1 146.4	42.6 6.2			
入網	ハタハタ 0.8 0.4	0.5 0.2			
重量	ホタルイカモドキ 0.0 0.4	0.0 0.0			
(kg/	キュウリエソ 0.1 0.7	1.4 48.3			
網)	オキアミ・ウミミ	25.8 -			
	(カバーネット)				
水温	表面 13.0 13.6	15.7 14.9			
(°C)	海底 1.8 3.5	3.6 4.2			

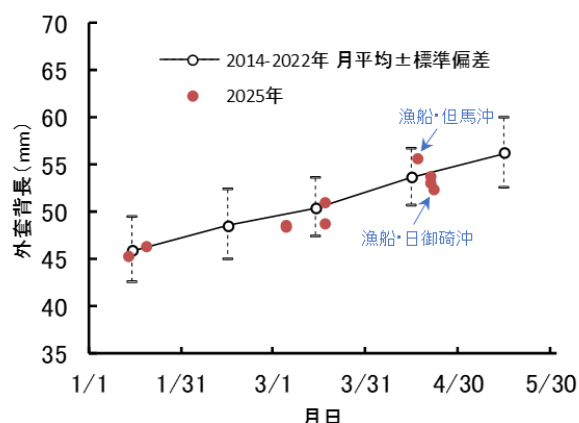


図3 ホタルイカの平均外套背長

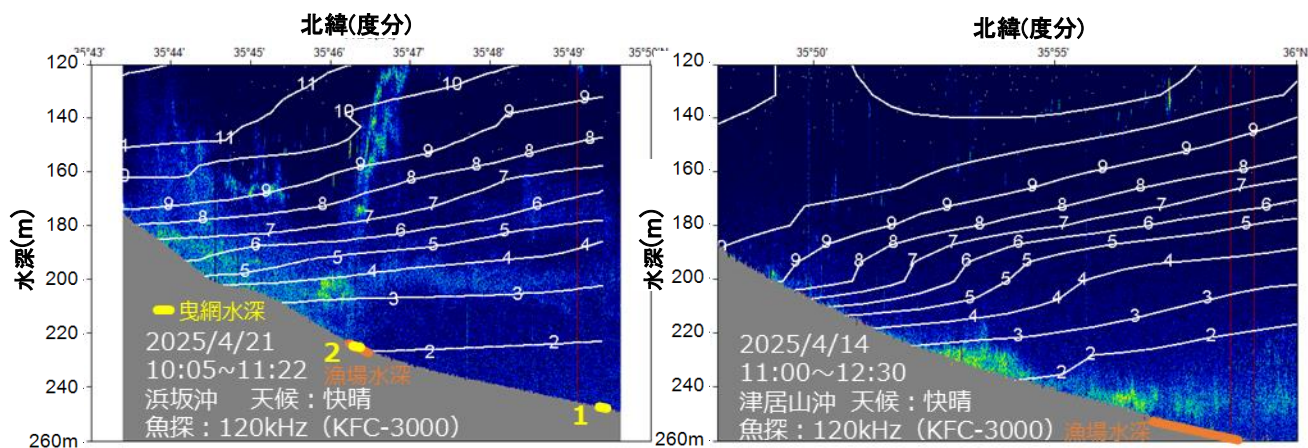


図4 観測ラインの水温鉛直断面図と魚探反応(左:浜坂沖4月21日、右:津居山沖4月14日)